

3) 当初, 非典型的ループス腎炎と判断した,  
MPO-ANCA 関連腎炎の1例

佐伯 敬子・長谷川 尚  
渡邊 武・黒田 毅  
伊藤 聡・上野 光博  
西 慎一・中野 正明  
荒川 正昭 (新潟大学第二内科)

症例: 52歳 女性. 現病歴: 1992年8月の検診ではじめて血尿, 蛋白尿を指摘された. 10月より発熱, 下腿浮腫, 膝関節痛が出現し, 抗核抗体, 抗DNA抗体が陽性であったことよりSLEを疑われ, 1993年5月当科に入院した. 血沈促進, 白血球減少と軽度貧血があり, 抗核抗体陽性であった. 抗DNA抗体, 抗dsDNA抗体陽性だったが, その抗体価はあまりたかくなく, 補体は正常だった. 高度の血尿, 蛋白尿があり, GFR 22.9 ml/min と腎機能低下をみとめた. ループス腎炎の診断で腎生検をおこなったところ約70%の糸球体に半月体形成を認め, 間質の広汎な細胞浸潤を認めた. 蛍光抗体法では補体の沈着は認められず, 電顕でもMTSや多彩な領域のdeposit沈着を認めないなど, 活動性のループス腎炎としては非典型的な組織であった. のちに保存血清でMPO-ANCAを測定したところ非常に高値であった.

考案: 本例の腎炎は補体の沈着を認めず, 血清補体も正常であり, immune complexの関与がよい腎炎というよりは, SLEの要素をもった症例にMPO-ANCA関連腎炎がoverlapしてきたものと考えられた.

4) ANCA 陽性例の臨床的検討

—特に治療に関して—

佐藤健比呂・鈴木 和夫  
大井 秀美・小林 理  
丸山雄一郎・阿部 惇 (新潟県立中央病院)  
村川 英三 (内科)  
関谷 政雄 (同 病理)  
島田 久基・上野 光博  
西 慎一・荒川 正昭 (新潟大学第二内科)

当科で経験したMPO-ANCA陽性9例の臨床経過,

治療について, 透析に導入した4例(I群), 慢性腎不全非透析2例(II群), 腎機能正常3例(III群)に分けて検討した.

I群は女性3例, 男性1例で, 年齢は64~78歳. 3例に腎生検を行い, いずれも半月体(Cres)がみられた. ステロイド治療を行ったのは肺胞出血を合併した1例のみで, この例を含めて, 死亡は2例であった. 他の2例は現在も維持透析中である.

II群は女性1例, 男性1例で, 年齢はそれぞれ, 69, 71歳. 血清Crは, 2.6, 2.4 mg/dlで, 腎生検では, ともにCresがみられた. 両者とも, ヘパリンについてワーファリンで治療したが, 現在まで腎機能の増悪はみられていない.

III群は女性3例で, 年齢は60~64歳. 1例に腎生検を行い, Cresがみられた. 全例, 臨床的にはリウマチ性多発筋痛症(PMR)と診断し, ステロイドで軽快した. 現在まで, 腎機能は正常である.

結語: MPO-ANCA陽性の慢性腎不全では, 抗凝固療法のみで, 長期に腎機能悪化がみられない例がある. PMRの中に, MPO-ANCA陽性の一群の存在が示唆される.

II. 特別講演

「血管炎症候群の臨床」

—ANCAを中心に—

杏林大学医学部第一内科主任教授

長澤俊彦先生